

同組合連合会会長の連名による提言書を作成し、政府及び各都道府県、地元選出国会議員等の幅広い関係者に働きかけ、提言で示された施策と必要予算の確保の実現に努めることを会場の賛同を得て決定し、議事を終了した。

トークショーやブーズ展示、募金を実施

開会に先立ち、海峡×ツセ下関の展示見本市会場でBS朝日のテレビ番組「魚が食べたい」のディレクターとぐっさん（山口智充氏）が「思い出の漁港と料理、そして思い出の人を振り返る、われた。」

スペシャルトークショーを実施。賛助会員や漁港漁場関係団体によるブーズ展示、恒例となっている漁船海難遭見育英会による水色の羽根募金も行われた。

主催者
主 扶

全国漁港漁場協会

会長 田中 郁也



第74回全国漁港漁場大会の開催にあたり、主催者を代表してご挨拶申し上げます。

本日は、漁業活動や公務などお忙しい中、本大会にご参加をいただき、心より御礼を申し上げます。全国各地より1350名の方々にご参加いただいています。

また、公務で多忙の中、ご来賓として、山本佐知子農林水産大臣政務官をはじめ政府関係の皆様、江島潔漁港漁場漁村整備促進議員連盟事務局長、村岡副政山口県、下関市、山口県漁業協同組合、山口県漁港漁場協会の皆様、林議長をはじめ

下関市議会の皆様、沿海の市町長をはじめ行政関係の皆様など、多くのご臨席をいただき、まことにありがとうございます。

本大会は、北海道・函館市での第71回大会以来、3年ぶりとなる地方での開催となります。水産業が盛んであり、様々な魅力に満ちた、海峡と歴史のまち、下関市での開催にあたり、ご尽力をいただきました、山口県、下関市、山口県漁業協同組合、山口県漁港漁場協会の皆様に厚く御礼を申し上げます。

に届ける取組として、歴史を刻んできました。本年も全国7ブロックで地区大会や協議会を開催し、各地の課題や進めるべき施策などの議論を重ねてきました。本日の大会において、提言としてとりまとめを行います。また、本日は3題の事例発表として各地の特徴ある取組を紹介いただきます。展示コーナーでは最新の技術情報を紹介しており、これらを皆様と共有する機会でもあります。本日の大会が皆様にとって、実り多いものとなりますことを祈念しています。

我が国の水産業は、海洋環境の大きな変化に直面しています。主要魚種などの不漁や沿岸の漁場環境にとって重要な漁場では磯焼けが拡大しています。また、毎年のように発生する、地震津波、台風、低気圧、豪雨などは、水産業や地域の暮らしに被害をもたらす。漁港施設等の機能低下が生じています。海洋環境の変化への対応、国土強靱化・防災減災対策を水産業の分野において、しっかりと進める必要があります。

結びに、私たちの取組と努力により、水産業が成長産業として発展し、活力のある豊かな漁村を次の世代につなぐため、全国の漁港漁場関係者の一層の団結のもと、活動を進めていくことをお願い申し上げます。ご挨拶といたします。本日は、どうぞよろしく申し上げます。

祝 辞

農林水産大臣政務官

山本 佐知子



本日は、「第74回全国漁港漁場大会」が1300名を超える皆様の御参加のもと、盛大に開催されるに当たり、一言お祝い申し上げます。

農林水産業は、食料の安定的な供給に欠かすことのできない重要な役割を果たすとともに、農山漁村に雇用と所得を生み出し、地域に根差した産業としてその持てる力を最大限に引き出していくことが重要です。

現在、我が国の水産業については、海洋環境による水産資源の変動や不漁、漁業就業者数の減少、燃油価格など物価の高騰、さらに、台風、豪雨など自然災害の頻発・激甚化しているなど、立ち向かうべき課題が山積しております。

他方、インバウンドが増

加していることや、漁港・漁村における高い鮮度の水産物、漁業体験、独自の風景や歴史などの地域資源の価値や魅力を生かした「海業」の取組が各地で始まるなど、明るい未来に繋がる動きも生じています。

こうした中、水産業の基盤となる漁港・漁場については、「漁港漁場整備長期計画」に基づき、海水温上昇等の海洋環境の変化に対して、魚種や分布域の変化に対応した漁場整備や、水産生物にとって重要な産卵場や育成場である藻場の保全・創造等を推進してまいります。

改めて申し上げます。また、本年6月には、「国土強靱化実施中期計画」が閣議決定されたところであり、漁港における耐震・耐津波・耐浪化対策や長寿命化対策等についても、しっかりと推進してまいります。

さらに海業については、昨年度に施行された改正漁港施設法の活用を進めることと、昨年度補正予算や本年度予算で認められた事業により海業の立ち上げへの支援を行うなど、海業の全国展開を加速化してまいります。

祝 辞

漁港漁場漁村整備促進議員連盟

鈴木 俊一 会長



第74回全国漁港漁場大会の開催にあたり、漁港漁場漁村整備促進議員連盟の会長として一言お祝い申し上げます。

ご列席の皆様には、我が国水産業の振興と漁村の発展にご尽力頂いており衷心より敬意を表します。

さて、我々は、漁港・漁場・漁村の整備促進を通じて、豊かな漁村社会の構築に寄与することを目的として議員連盟を立ち上げ、その趣旨に賛同する衆・参国会议員123名で活動をしており、新型コロナウイルス感染症の終息後、活発を取り戻した経済活動とともに、インバウンドも着実に増加しています。この機会を生かし、水産業の安定的な成長産業化を実現させなければなりません。さらに、世界情勢に鑑み、食料の安全保障の観点からも水産業は我が国にとって大変重要な産業であります。

結びに、本大会の成功と、我が国の漁港・漁場・漁村の発展、またご列席の皆様のご健勝を心から祈念し、私の祝辞といたします。

全国漁業協同組合連合会

代表理事会長 坂本 雅信



全漁連の坂本でございます。第74回全国漁港漁場大会の開催にあたりまして、JFグループを代表して、一言ご挨拶を申し上げます。本年は、漁業が大変盛んな下関の地で、多くの漁港・漁場関係者の皆様方を参集し、盛大に開催されますことを、深くお祝い申し上げます。

大きな被害をもたらしました。被害に遭われました皆様方にお見舞いを申し上げますとともに、早期の生活インフラの復旧を願っております。

このような状況に鑑み、JFグループは「海洋環境の激変に立ち向かうJF自己改革の断行」をスローガンとした、今年度から5か

年の新たな運動方針を策定し、いままさに漁業の存続をかけた取組みが全国で行われているところです。「漁業者を支える事業・経営改革の断行」、「組織基盤の確立」、「浜での中核的役割発揮による漁村・漁業への貢献」の3つの柱に基づき、全国の漁業者・漁協役員は、引き続き自己改革の実践に邁進して参ります。

そして、我々の最大の使命は、国内外のみならず世界中の方々に、安全で安心な水産物を届け続けることでもあります。この使命を果たし続けるためには、漁業を持続可能なものとし、漁業者の経営基盤を強化していくことが肝要でありましたが、その前提として、我々の生産基盤である「漁港・

はじめに、今夏の豪雨被害など、全国的に自然災害が頻発しているところでありますが、先日の台風22号・23号においては、八丈島を中心に

インフラとして非常に重要な役割を果たしております。日々漁港を支えていただいている関係者の皆様に対して、改めて深く敬意を表します。

さて、国内外における社会・経済情勢は引き続き混沌としており、漁業を取り巻く状況についても目まぐるしく日々変化をしております。なかでも、「海洋環境の激変」は我々にとって最も重要な課題であり、ご承知のとおり、前浜の魚種の変化や漁獲量の減少、魚介類の生育に必要な藻場や干潟の減少は、年々顕著となっているところです。

「漁場」の機能をより強固なものにしていくことが不可欠であります。今年度は「漁港・漁場整備長期計画」の取組み4ヶ年目であり、皆様方におかれましては、計画の必達に向けて日々邁進されていることかと存じます。本日付議される提言を契機とし、漁港・漁場・漁村や海岸の早急かつ着実な整備が実現されるよう、引き続き全国の関係者の皆様方の力を結集して取組んで参りたいと存じます。

結びに、明日の漁業・漁港・漁村の発展のため、全国漁港漁場協会並びに本日お集まりの関係者の皆様とともに、漁港関連事業を推進していく所存であることを表明し、お祝いの言葉とさせていただきます。

一般社団法人大日本水産会

会長 枝元 真徹



全国の漁港・漁場関係者が集う「第74回全国漁港漁場大会」の開催、誠にありがとうございます。

はじめに、7月のロシアカムチャツカ半島東方沖で起きた地震に伴う津波により被害に遭われた方々に、心からお見舞いを申し上げ

ます。今回の大会は、3年振りに地方での開催となりますが、本日はこの下関に、先生方、行政の皆様御臨席のもと、全国より多数の関係者の皆さんが集われる盛大な開催、心よりお慶びを申し上げます。

昨今、我が国水産業を巡る状況は、燃油など各種資機材や餌飼料、人件費の高騰、人材不足、海洋環境の変動による機機種の拡大、主要魚種の不漁など、課題

が山積しております。特に、地方においては人口減少による労働力の不足や経済の縮小が懸念されています。さらに、能登半島地震からの復旧、復興は道半ばであり、成長産業化や持続可能性の確保にとって正念場があります。

他方、消費が減少しているとはいえ、日本人は魚が大好きであり、我が国には各地に多様な食文化が根付いている強みがあります。また、世界の水産物需要も拡大する中、外国人に幅の伸びや需要が大幅に伸びています。これまでにない海洋環境の激変の中で、適切な資源管理や輸出拡大・海業などにより地域に根差した強い水産業を

実現することで地域の活力を取り戻すことが期待されているところであり、このため、拠点となる漁港の基盤整備・強靱化、豊かな漁場の再生は必要不可欠なものであるものと認識しております。

大日本水産会として、業界最大の使命である「国民に対する水産物の安定供給」を果たし食料安全保障に寄与していくため、水産業界の川上から川下まで、川下及び全国漁港漁場の維持・発展のため、関係者の方々、一丸となり、水産業の発展、生産基盤の維持・強化に取組んで行かなければなりません。

本日お集まりの漁港・漁場の関係の皆さんにおかれましては、今大会で提言さ

れる「海洋環境の変化に対応した基盤整備、藻場干潟対策」、「漁港の生産・流通機能の強化、養殖拠点整備」、「漁港・漁村・海岸の強靱化対策、長寿命化対策」そして「全国展開を加速するための海洋推進政策の充実」を進めて頂き、共に手を携え、業界の諸課題の解決に向け、また「水産業と漁村の維持・発展」のためご尽力を頂きたいと、お願いいたします。

結びにあたり、全国の漁港・漁場関係の皆様のご発展を心より祈念し、全国大会に当たって、お祝いのご挨拶とさせていただきます。

歓迎挨拶

山口県知事

村岡 嗣政



このたび、第74回全国漁港漁場大会が下関市において開催されますことをお喜び申し上げますとともに、平成4年以来、33年ぶりの開催となる山口県に全国各地からお集まりいただき、心から歓迎いたします。

また、本大会の開催に向けて準備されてきた多くの関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。山口県は、本州の最西端に位置し、北は日本海、西は瀬戸内海と三方を海に開かれて、全国でも6番目に長い海岸線（1,503km）と93もの漁港を有する水産県です。

日本海側では、イワシ、アジ、サバ等回遊魚類を対象とするまき網・敷網漁業等が営まれ、一方、瀬戸内海側は、ハマチやヒラメ、カレイ等を対象とする小規模船底引き網漁業が盛んで、

中東部海域には数多くの島々が点在するため、マダイ、タコ、ナマコ等の魚介類の好漁場となっています。

また、「山口県ならではの」養殖ブランドの振興にも取り組んでおり、県産地の酒粕で育成した「やまぐちほろ酔い酒粕養殖魚（ほろ酔いシリーズ）」として、サバ、ウマヅラハギ、アユ、トラフケのブランド化を進めています。

さらに、漁港・漁場整備においては、水産基盤の整備や水産資源の回復、防災・減災機能の強化などに積極的に取り組むこととしており、高度衛生管理型荷さばき所の整備や漁港施設の機能保全対策、キジハタ等を対象とした漁場整備や藻場造成、海岸保全施設の整備による高潮対策などを計画的に進めているところです。

このような中、山口県において本大会が開催されることは誠に意義深いことであり、これを契機として本県の水産業がより発展していくことを期待しております。

結びに、本大会の成功と公益社団法人全国漁港漁場協会のますますの御発展、並びに皆様の御健勝と御活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

議長選出

議長に選出された前田晋太郎下関市長
(山口県漁港漁場協会会長)



提言朗読

提言を朗読する全国漁協女性部
連絡協議会の中津喜美子会長
(山口県漁業協同組合女性部長)



提案理由説明

島根県漁港漁場協会
会長 久保田章市



ただいま、ご紹介を頂きました、島根県漁港漁場協会の会長を務めております、浜田市長の久保田章市でございます。はじめに、昨年一月に発生した能登半島地震により被災した皆様にお見舞いを申し上げます。復旧は道半ばと承知しておりますが、能登の美しい漁村の復興までの、さらに長い道のりを全国の仲間とともに支援していく決意を表す次第でございます。

また、本日ご出席の来賓の方々を始め、ご参集の皆様におかれましては、常日頃から水産業の振興と漁業地域の活性化にご尽力頂いている事に、心より敬意と感謝の意を表する次第であります。

さて、本大会での提案理由の説明に先立ち、島根県と浜田市の水産業の現状に若干触れたいと存じます。

島根県の沖合には、黒潮から分かれた対馬暖流が流れ、隠岐諸島や九州から続く陸棚、1000kmを超える海岸線を有し、多種多様な魚介類が生息する豊饒の海が広がっております。

そうした資源に恵まれた海を生かし、古くから隠岐地域のまき網漁業や県西部の石見地域では底びき網漁業などの沖合漁業が営まれております。

さらに沿岸域においては、県東部の島根半島に代表されるリス式海岸の地形を利用した定置網漁業や一本釣りの漁業、採介藻漁業などが営まれており、県全体

の令和6年の漁業生産は、10万1千トン、187億円となっております。特に魚種別では、マサシやカレイ類、アナゴは全国有数の漁獲量となっております。

次に浜田市の漁業についてですが、本市は島根県西部、石見地方のほぼ中央に位置し、特定第二種漁港である浜田漁港があります。浜田漁港では沖合底びき網漁業、まき網漁業を中心に様々な漁業が豊富に魚介類を水揚げし、島根県の漁業生産・流通の拠点を担っております。

これまで浜田漁港では、浜田市が整備主体として高度衛星管理型荷捌き所の整備を行い、2020年にまき網用の7号荷捌き所が完成、2023年に沖合底びき網用の4号荷捌き所が完成し、安心安全な浜田漁港の魚を全国の消費者にお届けすることができるようになりました。

その一方で、沖合漁業経営体の減少に伴い水揚げも減少傾向にあることから、市としても水揚げの確保・増大のため、地元漁船の維持・存続対策、県外水産事業者の誘致活動に力を入れてまいりました。

特に地元漁船の存続対策には、ノドグロやカレイ、アンコウなどの豊富な魚種を漁獲する沖合底びき網漁業2船団について、国や県とともに市も重点的に支援し、新船の建造・経営継続に道を開きました。

県外事業者の誘致活動については、浜

田漁港の背後地に大手水産加工事業者の進出が決定し、2027年度中の工場稼働に向け準備を進めています。

さらに、当市ではアジ、ノドグロ、カレイの「どんちっち三魚」や「浜田港四季のお魚」などのブランド化と2021年に市営としてリニューアルオープンした「山陰浜田港公設市場」(愛称「はまだお魚市場」)を拠点とした魚食普及イベントなど「海業」推進に取り組んでいるところです。

しかしながら、こうした漁業生産活動を支える冷蔵庫など、浜田漁港の流通関連施設は老朽化による稼働停止などにより脆弱であり、他の拠点漁港と比較しても能力が不足していることから、大幅な施設の増設や更新が求められているところであります。

また島根県全体を見渡しても、漁港関連施設は老朽化した施設が多く、生産活動に支障を来していることはもとより、近年の豪雨や台風などによる自然災害の頻発、大規模な地震・津波が懸念されるなか、防災・減災対策、施設の長寿化を進めることが急務となっております。

海そのものに目を向けても、水温上昇など海洋環境の変化は漁場に影響が懸念される状況であり、磯焼(いそや)けが散見されアワビやササエなどの資源への影響が危惧され、藻場の整備・再生などにも対応が急がれる状況となっております。

以上、「島根県及び浜田市」の状況などを踏まえて、付議議案「令和8年度漁港・漁場・漁村・海岸整備予算の確保に関する件」について、提案理由を説明いたします。

今、水産業は、水温上昇など海洋環境の大きな変化に直面し、各地で地域を支えてきた魚種の不漁が続いています。沿岸では磯焼けが拡大し、赤潮の発生、栄養塩の不足など漁場環境は厳しさを増しています。また、毎年のように地震・津波、台風、爆弾低気圧、豪雨などにより水産業への被害が発生しており、自然

災害の頻発、激甚化に危機感を覚えています。

さらに、防波堤や岸壁など、漁港施設等の老朽化の進行、泊地の埋塞など機能低下に加え、資材や燃料、餌料等の価格高騰など多くの課題があります。

このように水産業は厳しい状況にありますが、漁港等での衛生管理や加工場整備が進み、水産物の輸出が進展しています。漁港周辺の水域を利用した新たな増養殖の取組、海の幸などを求めて漁港漁村を訪れる消費者の増加など明るい兆しも見られます。今こそ海業を積極的に展開し、魚食普及・消費拡大の好機到来と言えます。

このため、令和8年度は漁港漁場整備長期計画の最終年に当たり、水産業の基盤である各地の漁港・漁場・漁村の諸課題に対応すべく、長期計画の達成とともに、次の重要事項の推進を強力に進める必要があります。

記

- 一、海洋環境の変化に対応した基盤整備、藻場干潟対策
 - 一、漁港の生産・流通機能の強化、養殖拠点整備
 - 一、漁港・漁村・海岸の強靱化対策、長寿化対策
 - 一、全国展開を加速するための海業振興策の充実
- 国、地方とも厳しい財政状況のなかとは承知していますが、我が水産業と漁村を持続可能なものとして次世代に継承する責任と、国民に安全・安心で良質な水産物を安定供給する役割を果たしていくため、ここに強く要望し提案するものであります。
- 令和七年十月十五日
第七十四回全国漁港漁場大会

夢と活力のある漁港漁村を次世代へつなぐ

事例報告

石川県漁港漁場協会

石川県沿岸域での漁場整備におけるICTの活用について



発表者

石川県漁業協同組合
代表理事組合長
中田 亨

石川県農林水産部水産課
漁港漁村整備室
課参事
田中 正隆

事例報告

山口県下関市

発表者



下関市農林水産振興部 部長
三木 正之

水産都市「下関」の
発展に向けて

事例報告

静岡県 内浦漁協

発表者



株式会社結屋 代表取締役 川村 結里子

関わりしろ型海業のすすめ
—静岡県沼津市内浦漁協直営
いけすやを事例に—

意欲的な
取り組みの
現地報告



漁船海難遺児育英会が募金活動

全国漁港漁場大会では、「漁船海難遺児育英会」の募金活動が恒例となっている。
今年大会においても（公財）漁船海難遺児育英会が大会会場において募金活動を行った。多くの大会参加者が募金活動に賛同し、「水色の羽」を胸に付け大会に臨んでいた。
多くの大会参加者が募金した。



閉会の辞

閉会挨拶を述べる他田豊防府市長（山口県漁港漁場協会副会長）



歓迎レセプション



「魚が食べたい」 スペシャルトークショー



来場者を魅了した 「上臈道中」

出席された政党（国会議員等）

役 職	氏 名
漁港漁場漁村整備促進議員連盟幹事事務局長 参議院議員（自由民主党）	江島 潔
参議院議員（公明党水産政策推進本部長）	横山 信一
参議院議員（立憲民主党）	古賀 之士
山口県議会議員（日本共産党代表代理）	木佐木 大助

代理の方が出席された国会議員

役 職	氏 名
衆議院議員 林 芳正（自由民主党）秘書	和田 和夫
衆議院議員 高村 正弘（自由民主党）秘書	津室 智山
衆議院議員 吉田 真次（自由民主党）秘書	藤井 克彦
衆議院議員 平林 晃（公明党）秘書	西岡 稔

出席された来賓（行政機関・関係団体等）

役 職	氏 名
農林水産大臣政務官 参議院議員	山本 佐知子
水産庁漁港漁場整備部長	中村 隆
水産庁漁港漁場整備部計画・海業政策課長補佐	中西 豪
水産庁漁港漁場整備部計画・海業政策課長補佐	塚本 邦芳
全国漁業協同組合連合会代表理事会長	坂本 雅信
（一社）大日本水産会会長	枝元 真徹
全国漁青連会長理事	阿部 誠二
全国漁協女性部連絡協議会会長理事	中津 喜美子
全国漁港海岸防災協会 会長	衛藤 征士郎
（一財）漁港漁場漁村総合研究所理事長	浅川 典敬
（一社）水産土木建設技術センター理事長	吉塚 靖浩
（一社）漁港漁場新技術研究会会長	橋本 牧
（一社）全日本漁港建設協会会長	岡 貞行
（公社）全国豊かな海づくり推進協会専務理事	熊谷 徹

第74回全国漁港漁場大会に祝電・メッセージを下された方々

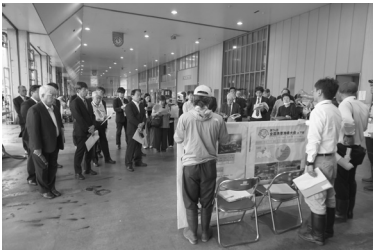
役 職	氏 名
内閣総理大臣	衆議院議員 石破 茂
自由民主党 総裁	衆議院議員 高市 早苗
衆議院農林水産委員長	衆議院議員 御法川 信英
参議院農林水産委員長	参議院議員 舞立 昇治
内閣官房長官	衆議院議員 林 芳正
経済再生担当大臣	衆議院議員 赤澤 亮正
国土交通副大臣	衆議院議員 古川 康
法務副大臣	衆議院議員 高村 正大
厚生労働大臣政務官	衆議院議員 吉田 真次
自民党漁港漁場漁村整備促進議員連盟 副会長	衆議院議員 金子 恭之
自由民主党広報本部長	衆議院議員 鈴木 貴子
	衆議院議員 山口 俊一
	衆議院議員 松本 剛明
	衆議院議員 西村 康稔
	衆議院議員 牧島 かれん
公明党山口県本部顧問	衆議院議員 平林 晃
	参議院議員 鈴木 宗男
	参議院議員 桜井 充
	参議院議員 野村 哲郎
	参議院議員 石井 準一
	参議院議員 中西 祐介
	参議院議員 江島 潔
	参議院議員 進藤 金日子
	参議院議員 小林 一大

全国離島振興協議会	会長	荒木 耕治
-----------	----	-------

※ 役職は10月15日当時のもの

現地視察
を実施

大会開催前後の日程で、参加者は現地視察を実施した。全国漁港漁場協会の関係者は秋漁港（第3種漁港）と「秋しまーと」（仙崎漁港（同）と「道の駅センサキッチン」を訪れた。



秋漁港(上)と、仙崎漁港(下)を視察し、それぞれ職員から説明を受けた

全国漁港漁場大会 山口県・下関市 来賓一覧

【山口県議会】	副議長	河野 亨
【山口県議会（農林水産委員会）】	農林水産委員長	山手 康弘
	農林水産副委員長	菅村 直也
		江本 郁夫
		西本 健治郎
		吉田 亮宏
		塩瀬 久雄
		高瀬 利也
		林 直人
		平岡 望
		前東 直樹

【県内市町長】	宇部市長	篠崎 圭二
	山口市副市長	田中 和人
	防府市長	池田 豊
	下松市長	園井 益雄
	光市長	芳岡 統
	長門市副市長	大谷 恒雄
	周南市副市長	道源 敏治
	上関町長	西 哲夫
	阿武町長	花田 憲彦

【山口県】	山口県知事	村岡 嗣政
	山口県農林水産部長	岡本 章生
	山口県農林水産部理事	中村 圭吾
	山口県下関水産振興局長	野村 太郎

【山口県漁港漁場協会】	副会長	森友 信
	理事	小田 貞利
	理事	田辺 寿之
	理事	長岡 利重
	監事	吉田 和人
	理事	中津 喜美子
	理事	入江 佳江

【下関市】	市長	前田 晋太郎
	副市長	大井 裕子
	農林水産振興部長	三木 正之

【下関市議会】	議長	林 真一郎
【下関市議会（経済委員会）】	委員長	坂本 晴美
	副委員長	山野 陽生
	(50音順)	井川 典子
		江村 卓三
		竹村 克司
		東城 しのぶ
		戸澤 昭夫
		瀧岡 慶生

【下関市水産関係議員連盟】		
“「下関ふく」を世界一に”下関市議会議員連盟 会長		田中 義一

【下関市水産関係等団体】	理事長	郷田 祐一郎
（一社）下関ふく連盟	会長	波田 慎治
（一社）下関水産振興協会	代表理事組合長	宮本 洋平
山口県以東機船底曳網漁業協同組合	代表取締役社長	所 英樹
共同船舶株式会社	常務取締役	稲 芳久
共同船舶株式会社	理事長	山口 栄二
下関水産物卸協同組合	理事長	酒井 一
下関唐戸魚市場仲卸協同組合	会頭代理 副会頭	中村 高志
下関商工会議所	会長	畠永 洋一
（一社）下関観光コンベンション協会		

【下関市漁業協同組合等】		
山口県漁業協同組合 下関外海統括支店	運営委員長	廣田 弘光
山口県漁業協同組合 本山以西統括支店	運営委員長	今井 正
山口県漁業協同組合 豊浦統括支店	運営委員長	西島 正明
角島漁業協同組合	代表理事組合長	阪井 章二

展示・物販

出展社名
（一財）漁港漁場漁村総合研究所
（一社）全日本漁港建設協会
（一社）水産土木建設技術センター
官民連携海業振興ポータルサイト
漁港ブレイキャスト工法研究会
（株）エスイー
（一社）漁港漁場新技術研究会 呉形ブロック専門部会/施工専門部会
東洋建設（株）
海洋土木（株）
環境維持保全工法研究会
（株）安部日鋼工業
晋木あすなろ建設（株）
関門港湾建設（株）
日本防蝕工業（株）
（株）ナカボーテック
海洋建設（株） 水産環境研究所
日本リース（株）
アトミクス（株）
（国研）水産研究・教育機構 水産大学校
（一社）漁港漁場新技術研究会 （株）テスライ
共同船舶（株）
（株）クボタケミックス
日之出水道機器（株）

物販ゾーン
阿武町 道の駅 阿武町：（株）あぶくりエイション
下松市 下松商工会議所
長門市 ながと物産合同会社
（一社）下関ふく連盟（株）藤フーズ
（株）山賀
（株）ふくの里
山口県漁業協同組合
下関観光コンベンション協会 ふくの関

展示や
物販も
充実

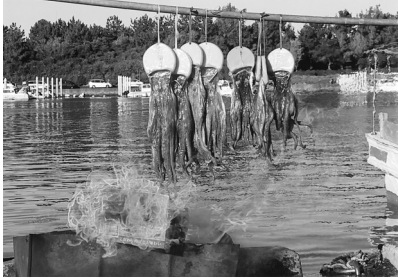


企業や関係団体によるパネル展示（上）と山口県産品の販売（下）も行われた

2025漁港漁場漁村海岸写真コンクール

特選
1 席

農林水産大臣賞



入賞作品決定!

（公社）全国漁港漁場協会と全国漁港海岸防災協会の共催、（一財）漁港漁場漁村総合研究所と（一社）水産土木建設技術センター、（一社）全日本漁港建設協会の協賛、水産庁後援による2025漁港漁場漁村海岸写真コンクールの入賞作品が、第74回全国漁港漁場大会の場で発表された。

同コンクールの作品審査は9月5日に行われ、入賞作品は、パンフレットにまとめられて大会参加者に配布された。

入賞作品は、特選1席（農林水産大臣賞）1点、特選2席（水産庁長官賞）1点、特選3席（全国漁港漁場協会会長賞、全国漁港海岸防災協会会長賞、漁港漁場漁村総合研究所理事長賞、水産土木建設技術センター理事長賞、全日本漁港建設協会会長賞）各1点、入選6点、佳作12点で、入賞者は別表の通り。

なお、入賞作品は全国漁港漁場協会のホームページに掲載しています。

特選
2 席

水産庁長官賞



特選
3 席

全国漁港漁場協会会長賞



特選
3 席

全国漁港海岸防災協会会長賞



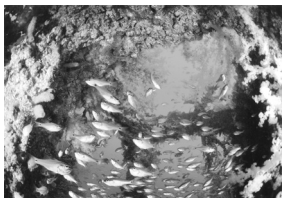
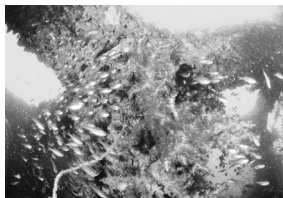
特選
3 席

漁港漁場漁村総合
研究所理事長賞



特選
3 席

水産土木建設技術
センター理事長賞



特選
3 席

全日本漁港建設協会会長賞



2025漁港漁場漁村海岸写真コンクール入賞者一覧

入 賞	題 名	氏 名
特 選 1 席	農林水産大臣賞	干しダコの季節 明野 敏行
特 選 2 席	水産庁長官賞	海の男達の祭り 渡邊 俊幸
特 選 3 席	（公社）全国漁港漁場協会会長賞	松川浦漁港夕陽 佐藤 優子
特 選 3 席	全国漁港海岸防災協会会長賞	それぞれの元日 山台 雄三
特 選 3 席	（一財）漁港漁場漁村総合研究所理事長賞	祭りの主役たち 川崎 信義
特 選 3 席	（一社）水産土木建設技術センター理事長賞	漁船ブロッコ 谷口 常雄
特 選 3 席	（一社）全日本漁港建設協会会長賞	「流水の流入」 阿部 浩
入 選	大漁の瞬間	山根 淳市
入 選	大漁の兆し	能任 栄一郎
入 選	漁の経突き	黒木 和隆
入 選	兆し	指田 丈二
入 選	ほほえむ海女	井上 悟
入 選	北の漁場	中川 富夫
佳 作	訪れた漁港	西片 正勝
佳 作	釣り船進水	伊藤 良一
佳 作	農果ての漁港	中村 和貴
佳 作	稚魚分散	カマタニ ヒサト
佳 作	海はボクの公園	高津 弘人
佳 作	漁火	杉浦 正幸
佳 作	筏漁場	篠田 光雄
佳 作	桜えびの天日干し	岩瀬 悦夫
佳 作	海苔の干出	糸賀 一典
佳 作	夜明けの親子	土屋 恵理
佳 作	渾く風とひかりの中で	小椋 利昭
佳 作	夏の瀬戸内	若松 陽子

